

# ニューズレター 経済教育学会

2021. May. No.35

会長挨拶・・・1 大会報告・・・2 理事会議事録・・・3～8 全国大会日程、学会案内・・・8

会長に大坂洋理事が選出されました。ご挨拶を掲載します。

## 会長就任のご挨拶

経済教育学会会長 大坂洋(富山大学)

この度、学会長をさせていただくことになりました大坂洋です。任期は半年ほどの短い期間ではありますが、よろしくお願ひいたします。

さて、日本でのコロナ感染が発生してから、1年以上が過ぎました。学会行事としては、昨年2020年の2月下旬のCORE ECONプロジェクトの関係者が集まった富山での研究会が最後の対面での企画になったと思います。3月7日に開催予定であった春季研究集会は中止になり、また、秋の全国大会も延期され、zoomによる9月26日、27日オンライン・フォーラムの開催、2021年2月20日、21日に延期された全国大会もオンライン開催となりました。この間の困難をのりきった、高橋前会長をふくめ、多数の会員のご尽力に頭が下がる思いです。

オンライン上での学会行事に参加して実感するのは、オンラインでは、人間関係を広げることが難しいということです。分科会の後での名刺交換と雑談のようなありきたりのことが人間関係を広げる上で重要であることを実感しています。

ただ逆に、オンラインでの開催によって、時間的制約や旅費の問題で学会行事に参加するのが難しかった会員の皆様が、気軽に参加できるようになったのは、よいことです。このオンラインの長所を、会員間の研究・教育上の有益な人間関係の構築に結びつける方策が、学会として求められているように感じております。それが実を結べば、コロナ禍での経験を有益なものとしてアフターコロナに継承することにもつながるかと思ひます。

コロナ禍で忘れがちですが、2019年から2020年の韓国と日本の外交上の関係は戦後最悪とっていいほどのひどい状況でした。このような状況にも関わらず、日本側では、裴光雄会員、高橋前会長ほかのご尽力により、日本経済教育学会と韓国経済教育学会が、関係を維持するにもとどまらず、より緊密な関係に向かっていったことは、学会活動の面にとどまらず、やや大げさにいえば、韓国と日本の学術・文化交流史上、極めて意義深いことであつたと思ひます。さまざまな政治的な背景があり、いまだに韓国と日本の外交上の関係は良好とはいへません。しかし、儒教と仏教を通じた交流にみられるように、韓国と日本と文化的交流は1500年にも及びます。困難にも関わらず、経済教育という重要な場面で、伝統ある日韓の文化的交流を断ち切らず、維持し、発展させたことは、10年後、20年後にかならず正当な評価を受けるものと確信しております。



## 第 36 回全国大会報告 実行委員長 高橋勝也

2020 年度の全国大会は、新型コロナ禍の影響で、2021 年 3 月 20 日と 21 日に Zoom によるオンライン開催として行われた。大会のテーマは「アクティブ・ラーニングで学ぶ大学受験とキャリア教育」である。プログラムは以下の通りである。

=====大会プログラム=====

第1日(3月20日・土曜日)



13:00-16:00 シンポジウム (オンライン発信※一般参加者は、オンラインでの参加です)

進行:橋本 勝 氏(富山大学)「橋本メソッド」に準じた形で進めます。

13:00-13:30(30) オープニング(会長挨拶・グループの顔合わせを含む)

13:30-13:55(25) 話題提供①:竹内 元人 氏(富山県総合教育センター)

小講演(10)⇒ブレイクアウト(05)⇒全体共有(10) ※他の話題提供も同様

13:55-14:20(25) 話題提供②:中里 弘穂 氏(福井県立大学)

14:20-14:45(25) 話題提供③:北島 啓嗣 氏(福井県立大学)

14:45-15:00(15) 休憩

15:00-15:15(15) 小提言(高校から大学、大学から高校、両者を繋ぐために)

15:15-15:30(15) ブレイクアウト

15:30-16:00(30) 全体討議・総括

16:15-17:00 総会

第2日(3月21日・日曜日)

10:00-12:10(130) 【午前の部】分科会{(30)×4回}

13:00-15:40(160) 【午後の部】分科会{(30)×5回}

第1日目はシンポジウムを富山大学会場にシンポジストが集合し、参加者は遠隔からオンライン開催で参加するハイブリッド方式であった。参加者は約40名であった。学会としてはハイブリッド方式は初めてである。また、Zoomのブレイクアウト機能を使ってのグループ討議も行って進められた。司会を橋本会員、技術面を大坂会員と新里会員が担当した。

一般的には、Zoomのブレイクアウトルームでのグループ討議は話題提供が行われた後に組み込まれるが、多人数講義型授業の「橋本メソッド」に準じて行った今回のシンポジウムでは冒頭にいきなりブレイクアウトルームに分かれ「少し長めの自己紹介」を行った。これは参加者全員の参加度を高め、その後の発言を活発化させる狙いがあった。

次いで、3人のシンポジストにそれぞれに10分以内で「キャリア教育の実態」を中心に話題提供してもらい、一人の話題提供が終わるごとにブレイクアウトルームでのグループ討議を5分行った後、約10分の全体討議を繰り返す「サンドイッチ構造」で進めた。冒頭のグループ討議で口が滑らかになった参加者の多くは短時間のグループで活発に発言したようである。その後、再度、シンポジストに5分以内で「今後のキャリア教育に対する提言」を続けて話してもらい、今度はまとめて15分のグループ討議の行う形をとり、最後に残った時間をフルに使って、全体討議を行った。

対面式の「橋本メソッド」でもそうであるが、今回のシンポジウムでの全体討議での発言も主体的・積極的な発言を促進し「場を盛り上げる」という観点から「手を挙げた人」のみが発言できる原則をとり、発言希望が多い場合は司会が適宜調整した。但し、非会員ということで遠慮がちだった高校教員に高橋会長が発言を促す場面もあった。

初めてのハイブリッド方式で若干のトラブルはあったものの、予定した時間をわずかにオーバーする中で、総じて活発な意見交換ができたこと総括でき、参加者からも好評であった。

第2日目はZoomを会場として、分科会が開催された。A分科会とB分科会に分かれ、午前、午後、合計17本の自由論題報告が展開された。初等教育から大学教育までバラエティーに富んだ経済教育に関する報告がなされた。

経済教育学会 理事会 議事録 2021年1月9日 14:00～16:10  
出席者 阿部信太郎、飯嶋香織、井草剛、宇佐見義尚、大坂洋、久井田直之、越田年彦、齋藤哲哉、関本祐希、高橋勝也、高橋桂子、土居拓務、中里弘穂、中谷武雄、新里泰孝、裴光雄、松野至、水野勝之、宮下春樹、八木尚志 20名、委任状8通

議長：高橋会長 書記：関本祐希

## 審議事項

### 1.経済教育学会第36回全国大会について

大坂理事が富山大学に確認したところ、50名程度のセミナーなどは感染が落ち着いている状況では問題ないが、県レベルで緊急事態宣言が出た場合、県の健康保険課の指示に従うこと、卒業式を優先してもらいたいという条件があるとの報告があった。高橋会長からは、分科会の発表者で5名が富山大学を希望していると報告があった。富山大学で開催できない可能性があるため、5名にはオンラインで実施することをお願いすることになった。シンポジウムの方は、対面形式を前提にしたものなので、時間をいただいて練りたいとのことで、シンポジウムは開催方法を検討(北陸グループで検討)すること、分科会はオンライン開催とし、座長の決定などは後日の理事会で決定することが承認された。

### 2.学会賞選考委員について

大坂理事から柴田会員を除いた前選考委員を継続ということが理事会で決定されていたこと、また岩田理事は個人的には適任者がいれば交代したいとの個人的な連絡があったとの報告があった。新里理事から規定によると選考委員は7名以内(理事3名含む)となっているため、岩田年浩理事、齋藤哲哉理事、水野英雄理事、大坂洋理事、高山新理事の5名のみでもよいのではないかという意見があり、今後委員と事務局が連絡を取り、従来通りの3月締め切りで、募集の告知を早期に行うことが確認され、賛成多数で承認された。

### 3.『経済教育』への投稿の締め切りの変更について

久井田編集長から締め切りを5月20日に変更することが報告された。また、編集委員の任期を学会誌発刊までとすることが賛成多数で承認された。

### 4.学会会則および役員選出細則の改正について

補充理事の位置づけについて、会則に補充理事を明記し、各種委員会を会則に明記した事務局素案をたたき台に議論された。水野理事から補充理事の数が多すぎるのではないかという問題提起への議論が先に必要ではないかという意見と、従来の各委員会から必要性に応じ

て補充理事の推薦のほうがよくはないかという意見があった。また、新里理事から“補充”理事と明記する形式より、理事になった後は同じ立場の理事の方がよいのではないかという意見や、大坂理事からは、繰り上げで理事になった下さった方が汗を流してくださる方が多いことから選挙で20名の理事を確保することが望ましいという意見があった。高橋会長からは、理事しか仕事ができない形式は難しいこと、全国大会実施時に委員全員を補充理事に理事の人数の関係でできなかったこと、若手の先生にも仕事をお願いできる形ができないかという意見があった。宇佐見理事、齋藤理事からは幹事を置くようにしてはどうかという提案があった。中谷理事からは、補充理事は理事会で承認することを前提とすると、素案にあった補充理事に関して、理事の推薦を1名に限る必要はないのではないかという意見があった。これらの意見を集約し、事務局で次回までに幹事会を加えるかどうかを検討し、委員会の位置づけも今後検討することになった。

### 5.全国大会以降の会長職について

久井田事務局長から現在の高橋会長の任期は3月末の全国大会までであることが報告された。会則および役員選出細則により、会長の選出は互選によるとなっていること、3月の全国大会から次の全国大会までの次期会長は3月の全国大会の理事会で決めることが確認された。

### 6. 2021年度経済教育学会第37回全国大会について

齋藤理事から現状では、会場を借りて対面での大会実施は難しく、10月中旬以降に日時を設定するのが望ましいと考えており、3月の理事会で決定できるようにしたいとの報告があった。

### 7.その他

阿部理事から実践女子大学の教育プロジェクトの「日本型金融リテラシー教育の在り方をさぐる」(2021.3.7)というシンポジウムについて後援依頼があり、了承された。

裴理事から韓国経済教育学会の金龍民先生から連絡があり、韓国経済学会における経済教育のセッションが2月4日にオンラインで実施されるとの報告があった。詳細の連絡は来ていないが、1月24日が原稿締め切りであるが、フルペーパーでなくてもよいとのことで、メルマガで連絡をするので参加希望者は連絡をいただきたい。

水野理事から学会会議の件について質問があり、高橋会長から次の理事会で議論を深める方向での回答があった。

## 2020年度 経済教育学会 理事会議事録

日時 2021年2月6日(土) 14:00-16:00(120分)オンライン(ZOOM開催) 議長：高橋 勝也、書記：宮下 春樹

出席者:17名 阿部 信太郎, 井草 剛, 猪瀬 武則, 宇佐見 義尚, 久井田 直之, 関本 祐希, 高橋 勝也, 竹田 英司, 土居 拓務, 中里 弘穂, 中谷 武雄, 新里 泰孝, 橋本 勝, 松野 至, 水野 勝之, 宮下 春樹, 八木 紀一郎 委任状:12名

### 《報告事項》

久井田事務局長より、2020年度末以降、退会者が増加しているとの報告があった。退会者については、退会手続きをした後に事務局が連絡をし、メーリングリストで理事と共有することが確認された。高橋会長より、韓国経済教育学会が2021年2月5日に実施され、同会の新会長としてキム前副会長が就任されたとの報告があった。久井田事務局長より、2021年度の学会誌は40号で節目になること、全国大会は3月にオンラインで行うため、報告人数が少なくなり、論文掲載も少なくなる見込みであることが報告された。そこで、記念号企画として、過去10回会長を担当された会員8名にメッセージの執筆依頼をすることが伝えられた。メッセージの執筆文字数は、5000字程度、ページは4ページ程度になることが共有された。また、コロナウィルスの流況状況を踏まえ、タイトルの「ポストコロナ」の一文を「ポストコロナ・ウィズコロナ」にした方がよいという指摘があった。

### 《審議事項》

#### 1. 経済教育学会第36回全国大会(2021年3月20日(土)~21日(日))について

新里理事より第36回全国大会の概要の説明がなされた。初日は、基調講演をシンポジウムに変更すること、シンポジウムは富山から配信を行うことが提案された。また、シンポジウム後に総会をするとの説明がなされた。シンポジウムのテーマは、「アクティブラーニングで学ぶ大学受験とキャリア教育」であることが確認された。会員の参加登録の締め切りは3月14日とすること、ブレイクアウトルームの開設をすることが提案された。橋本理事より、当初予定していた最終講義(講演)を削除した経緯についての説明があった。

#### 2日目・分科会座長の選出

高橋会長より午後のA分科会では辞退者が出たため、4本となったことが報告された。1つの分科会につき2名、午前・午後を合わせ合計8名の座長の立候補を依頼した。高橋会長より1日目のシンポジウムおよび分科会発表者には、学会誌論考の掲載権があるとの説明があった。また、会員に対し2021年3月14日まで参加を呼びかけ、同期限を過ぎた後に希望者がいた場合は、大会メールで対応することが報告された。

#### 2. 学会会則および役員選出細則の改正について

久井田事務局長より、前回理事会で補充理事制と幹事の設置という2つの提案があったことを踏まえ、会則改正案を用意したとの説明がなされた。改正A案では5つの委員会を常設し、条項第7項で幹事について記述したとの報告があった。改正A案の目的は補充理事制を廃止し、理事と幹事の棲み分けを行い、学会運営を円滑に進めることであるとの説明があった。改正B案の趣旨は、「幹事」という文言を入れず、推薦理事を10名にとどめることにあるとの説明があった。

久井田事務局より改正A案では理事が委員を担当すること、補充理事制度をやめ、理事と幹事で学会業務を運営するとの説明がなされた。また、高橋会長および久井田事務局長より、改正A案では理事は選挙で選出され幹事は理事会にオブザーバー参加となるため、理事は幹事より役割が重くなるとの説明がなされた。続いて幹事は役員ではなく、業務運営は選挙で選ばれた理事が運営し、理事の人員も減らしていく旨の説明があった。

改正A案第6項の⑥に学会賞選考委員会を加える必要があるとの指摘があった。久井田事務局長より、前回理事会では、学会賞選考委員会は常設委員ではないため、第6項で表記する必要はないとの説明がなされた。幹事を改めて設ける必要はないと思われること、理事会における幹事の発言権を弱くする必要はないと思われるとの指摘があった。経験の豊富な会員に補佐的な役割として幹事に就任することを依頼するのは失礼にあたるとの指摘があった。本学会の会則は概念的な内容を述べる形式をとっており、細かい規定は細則で規定する伝統があるとの指摘があった。また、改正B案の理事20名と推薦理事10名には、それぞれ平等な理事として議決権を持たせるのがよいとの指摘があった。

高橋会長より現行制度にあいまいな点があり、明確にするべきとの説明があった。さらに、若手会員が積極的に学会運営に携わるシステムを作れないかとの説明がなされた。久井田事務局長より、幹事制度を設けるのは望ましくないと思われる旨の説明があった。これまでの意見を総合すると、修正B案を採用し、選挙理事に加え10名以内の補充理事制を採用するのが望ましいという説明があった。

完全な改正案の作成は3月の大会以降に行うとの見方に落ち着いた。以前、補充理事を増員できなかった経緯を踏まえると、補充理事を10名に絞るのは疑問であるとの指摘もあった。さらに、理事や委員が退会した場合の処置の規定がなく、役員の規定の詳細がないことが懸念されるため、会則の変更プロセスも明記するのが望ましいとの指摘もあった。久井田事務局長より2021年度理事選挙は現状の会則のまま実施し、現時点では会則の変更をせず、時間をかけて業務を分割していくのが望ましいという説明がなされた。今回は、問題提起とその共有が出来たという結論でよいのではという説明がなされた。また、高橋会長より、総会と選挙の時期が迫っており、今回の審議をもとに進めていく旨の説

明があった。

2021 年度理事選挙は現状の会則のまま実施し、現時点で会則の変更をせず、時間をかけて会則を検討していくことは出席者の賛成多数をもって承認された。

### 3. 経済教育学会第6回地域研修会との共催依頼について

水野理事より、第6回地域研修会を明治大学経済教育センターと経済教育学会との共同で開催したい旨の提案があった。土居理事より、報告者は鹿児島に集合すること、当日はオンラインで配信し、ハイブリッド形式で実施する旨の補足説明がなされた。

地域研修会を明治大学経済教育センターとの共同で開催することは、出席者の賛成多数をもって承認された。

### 4. 学術会議について

高橋会長より、本件について理事会でメール連絡し、意見を募ったところ、まとめきれなかったという報告があった。

#### 質疑・応答

理事の中から、任命拒否問題は、学問の自由・研究の制限を誘引する可能性があるため、機会があれば、声をあげた方がよいのではとの指摘があった。その一方、これまでの理事会の方針では、積極的に HP にあげるという話だったが、様々な立場があることを考慮し、学術会議の記事を学会ホームページに掲載するべきとの指摘があった。

久井田事務局長より、学術会議の動向は今後理事会メールで共有し、学術会議の記事や記者会見も合わせて掲載することにより、学会として声明文を出すことの代わりにするとの説明があった。また、高橋会長より、メールには様々な意見が確認されたため、まとめきれず、無理に進めない方がよいとの説明があった。

理事の中からは今後、理事会として本問題の推移を見守るのが望ましい旨の指摘があった。また、学術会議が本問題に対し抗議を行っていることに賛同しているという意見もあった。久井田事務局長より、1.理由なく任免されないことの説明をもとめること、2.候補者の任命をもとめること、3.学術会議を改変しようとする政府の動きに注目しつつ、本問題に関して継続的に検討していくとの説明があった。久井田事務局長より、学術会議のメールが事務局に届いた場合、理事会に早急に転送する旨の説明があった。

学術会議の動向を今後理事会メールで共有し、学術会議の記事や記者会見も合わせて学会ホームページに掲載することにより、学会として声明文を出すことの代わりにすることは、出席者の賛成多数をもって成立した。

#### その他の報告事項

学会賞の募集を早急に告知していただきたいとの指摘があった。久井田事務局長より、2019 年 4 月 1 日より 2021 年 3 月 31 日までを受賞対象の期間とすること、年齢を改定し、41 歳未満の会員とすること、推薦の受付期間は、久井田事務局長宛に大会前までに提出の依頼をしていただきたいとの説明があった。

#### 2020 年度 経済教育学会 理事会議事録

日時 2021 年 3 月 20 日(土) 10:00-12:00(120 分) オンライン(ZOOM 開催) 議長：高橋 勝也 書記：土居 拓務

出席者:23 名(\*敬称略) 阿部 信太郎, 井草 剛, 猪瀬 武則, 宇佐見 義尚, 久井田 直之, 高橋 勝也, 高橋 桂子, 土居 拓務, 中里 弘穂, 新里 泰孝, 橋本 勝, 水野 勝之, 宮下 春樹, 八木 紀一郎, 岩田 年浩, 斐 光雄, 齋藤 哲哉, 関本 祐希, 高山 新, 大坂 洋, 越田 年彦, 飯島 香織, 松尾 匡 委任状:7 名。

#### 《報告事項》

1. KEEA 主催による日中韓の国際シンポジウムへの本学会からの派遣者について

裴理事から 10 月 26 日にソウルで開催される 2021 年度日中韓の国際シンポジウムについて、3 月 15 日まで 4 名の派遣者(セッション 1~3 の報告者, コメントータ)を募集したところ、セッション 1 の報告者が水野(勝)理事, セッション 2 の報告者が大坂理事, セッション 3 の報告者が栗原理事, コメントータが新里理事に決定したとの報告があった。なお、2021 年度は特別シンポジウムのため学会を代表する者として、理事もしくは理事が推薦する者というのが派遣者の条件であり、上述の 4 名の理事は審査委員にみていただいた結果、了承された。また、裴理事から例年 8 月に開催されている通常のシンポジウムは、今年は開催されないだろうという意見があった。

2. 年度末の退会者について

宮下理事(会計担当)から、退会者と 4 名から退会の連絡を頂いている旨の報告があった。

3. その他

久井田事務局長から 2021 年度は学会賞を出すため、現在募集しており、既に複数人から申請されていることについて連絡があった。

#### 《審議事項》

1. 明日の分科会司会について

高橋会長から明日の第 36 回全国大会分科会の司会について、松野理事の代わりに務められる方はいないかを募集した。その結果、大坂理事, 川合理事が候補に挙がり、川合理事に決定する。(\*本審議事

項については、順番を入れ替えて最後に実施し、本理事会終了後に決定している。)

## 2. 理事選挙について

久井田事務局長から今年度は理事が改選され、選挙期間は6月1日～6月30日までとする提案があり、議決の結果、賛成多数で可決された。また、併せて3期連続の理事就任を制限する規定において、今年度は7名の理事が該当し、うち3分の1にあたる3名(宇佐見理事、新里理事、田中淳理事)に被選挙権がないことの確認がなされた。

## 3. 2021年度予算案について

宮下理事(会計担当)より2021年度予算案について報告があった。多くは2020年度を踏襲しているが、新たに理事選挙の費用3万円を追加している。また、2020年度の決算繰越は150万円程度と余裕があるが、それは全国大会で費用を使わなかったことが理由である。なお、久井田事務局長から学会誌のページ数が増えたため金額も増加している旨の補足があった。予算案についての議決の結果、賛成多数で可決された。なお、合計金額の数字に一部不備があったため新里理事から修正するよう指導があり、本理事会の最後に修正版の会計資料を全体で共有した。

## 4. 2021年度全国大会について

齋藤実行委員長より、例年は9月、10月上旬開催のところ、2021年度は10月30、31日に開催したい旨の提案があった。対面開催を中心にオンラインを併用した開催を検討しているため、時期が多少なり遅い方が良くと考えての判断である。

具体的な日程の確定時期について高橋会長が齋藤実行委員長に質問したところ、年度が替わる4月中旬と説明した。水野(勝)理事が2022年3月開催にしない理由について質問したところ、齋藤実行委員長から時間が空きすぎる気がするという回答があった。これら質疑の結果、高橋会長が10月30-31日の開催を目標に、4月中には時期を決定したいという発言があった。

なお、裴理事から日中韓シンポジウムが10月26日に開催されるため、30-31日だとソウルで報告される方の予定がタイトになるということ、さらに韓国の先生方を招待する形で第37回全国大会を開催したいとのコメントがあった。このことについては、齋藤理事(実行委員長)が裴理事と協力して進めることで決まった。

本件についての議決の結果、賛成多数で可決された。

## 5. 2021年度春季研究集会・2022年度全国大会について

高橋会長から2021年度春季研究集会について阿部理事にご協力いただけないか相談したところ、齋藤実行委員長より城西国際大学の紀尾井町キャンパスでの開催提案があった。

久井田事務局長から2022年度の第28回全国大会の開催地などについて10月の全国大会までには確定したい旨の連絡があった。また、齋藤実行委員長から開催地が東に寄っている傾向があるから西で開催したい旨の提案があり、猪瀬理事からもバランスを取った方がいいと思うという発言があった。

2021年度春季研究集会は城西国際大学紀尾井町キャンパスで開催すること、2022年度の第28回全国大会を東の開催地で協力して進めていくことについて、議決した結果、賛成多数で可決された。

## 6. ワーキングペーパーの執筆要綱について

飯島理事からワーキングペーパーの投稿要領について、(1)投稿いただいたから、HPへのアップまでに1ヶ月半程度の期間を要すること、(2)修正時に差し戻して再提出を促すことについて修正記載する旨について提案があった。

今月までに3件の掲載依頼があり、体裁しか確認しないという立場をとっていることから「すぐ掲載して欲しい」という依頼を受けることが多い。掲載内容について一定のレベルは保持したく、二重投稿でないことの確認、研究者の署名くらいは求めたい。そして、何も問題なかったとしても1ヶ月半程度の時間を要するという説明があった。さらに、投稿時に論考なのか、授業紹介なのか、教材なのかの区別が曖昧になっていることも指摘として挙げられた。

久井田事務局長から、査読のような負担を回避しつつも、学会として一定ルールを設けてリスク回避する必要という意見が挙がった。新里理事からは、ワーキングペーパーがすぐに掲載されないことを相手に明示する必要があるという意見があった。大坂理事からは、ワーキングペーパーの掲載内容について担当者が責任を持つのは大変と指摘した。その上で、ワーキングペーパーの修正については、委員の意見ではなく、読者による個人判断という形式で修正を促すのが良いという提案があった。ただし、個人からの意見という微妙な修正依頼になり、投稿者を困惑させてしまう可能性も示唆した。猪瀬理事からは、掲載者に対してある程度の指導はして欲しいという意見があった。内容の良い文章であっても学術的な訓練を受けていないために論文が書けない人がいるのは事実だが、そのような人は指摘されるうちに学んで直していくと説明した。猪瀬理事の意見に対して、高橋会長も同意の姿勢であった。久井田事務局長からは、ワーキングペーパーには若手教員への研究の意味も含まれている。ワークショップなどを開催して、論文の書き方を学ぶ機会を設けてはどうだろうかという意見があり、また、ワーキングペーパーと学会誌編集委員が共に考える必要性を説明した。大坂理事も論文の書き方を伝える機会を設けることに賛成の意向を示し

た。

議論の末、ワーキングペーパーの掲載に時間がかかること、そして、再投稿を促す趣旨を明示することについて、議決を採った結果、賛成多数で可決された。

#### 7. 総会報告事項・審議事項の承認

久井田事務局長から総会にかけの議事事項について確認があった。一つ目はワーキングペーパー投稿規定の修正追記を報告すること、二つ目は2021年度の春季研究集会在城西国際大学紀尾井町キャンパスで開催されることを報告すること、三つ目は理事選挙の実施と会費未納の場合に選挙資格がなくなる旨の報告である。また、春季研究集会和理事選挙の件については、久井田事務局長から報告することで提案があった。

これら内容について一括して議決を採った結果、賛成多数で可決された。

#### 8. 次期会長について

新会長を互選するにあたり、猪瀬理事からこれまでの慣例に従い富山大学から選出するのが良いという意見が挙がり、水野(勝)理事も同意した。橋本理事から、是非、大坂理事を推したいという意見が挙がる。大坂理事は他の理事を推すも、周囲の意見を尊重して引き受ける方向で合意した。

本日の総会で承認を受けた後、明日から大坂理事が会長に就任することについて、賛成多数で可決された。

#### 9. その他

高橋会長から分科会のコメンテータ(松野理事の代わり)について、大坂理事に引き受けていただけないか相談し、大坂理事が快諾した。

宮下理事(会計担当)は修正した会計書類を提示しつつ、理事の先生には4月までに会費を納入していただきたい旨を説明した。

---

#### 2020年度 経済教育学会 総会議事録

日時 2021年3月20日(土) 16:15-17:00(45分) オンライン(ZOOM 開催)

議長：新里 泰孝 書記：土居 拓務 出席者:21名

#### 《 審議事項 》

##### 1. 2021年度予算案の承認について

宮下理事(会計担当)より2021年度予算案について提示され、満場一致(21名中21名)により承認された。なお、2020年度の繰越が多いため多少の余裕がある旨、会費が2年間納入されない場合には今年行われる理事選挙の被選挙リストから外される旨の報告がされた。

##### 2. 新会長の承認について

久井田事務局長から理事会で大坂理事の新会長就任が決定した旨の報告がなされ、満場一致(21名中21名)で承認された。その後、大坂新会長による就任の挨拶がなされた。

#### 《 報告事項 》

##### 1. ワーキングペーパー執筆要綱の変更点について

飯島理事からワーキングペーパーの投稿要領について、投稿いたしてから、HPへのアップまでに約1ヶ月半の期間を要すること、誤字や脱字がある際には修正を依頼することができる旨を追記することについて報告があった。

##### 2. 2021年度第37回全国大会について

久井田事務局長から第37回全国大会の開催日については10月下旬(30、31日)を検討しており、場所は日本大学経済学部を予定している旨の報告があった。また、対面が開催できるようであれば、対面開催の準備を進めたいという意向が報告された。同時に対面開催の可否については年度が明けないと正式に判断できないという趣旨が新里理事から挙げられた。

##### 3. 2021年度春季研究集会

久井田事務局長より、2020年3月に予定されていた城西国際大学での春季研究集会について、2022年3月(春季)に同じ城西国際大学紀尾井町キャンパスで開催する旨の報告がなされた。本報告の後、阿部理事から挨拶がなされた。

##### 4. 理事選挙について

久井田事務局長から次の内容について報告がなされた。選挙期間は6月1日～6月30日が選挙期間であり、5月末日までを目安にニューズレターと併せて選挙用紙を送付する。なお、被選挙人名簿は4月1日時点の会員を対象に作成される。ただし、2年以上の会費滞納があると被選挙人名簿に名前が記載されないため、4月1日までは支払って欲しい。なお、6月の投票期間が終わった後、7月中の開票を予定している。

##### 5. 会長挨拶

高橋会長は本日のシンポジウム・総会の出席にかかるお礼をし、明日(3月21日)の分科会成功への祈念を挨拶とした。また、分科会では、松野理事に代わり川合理事がコメンテータを務めることについて併せて報告がなされた。

## 6. 閉会挨拶

久井田事務局長から、オンラインで学会が開催されていることに対する感慨と同時に、学ぶ機会が多く持てるような学会発展を目指したいという閉会挨拶がなされた。

学会運営と情報共有の円滑化のため、メールアドレスの登録をお願いしております。登録されていない方は学会事務局のメールアドレス [office@ecoedu.jp](mailto:office@ecoedu.jp) に御知らせ願います。左の QR コードより、携帯メールから登録可能です。



### <会員の異動>新入会員

2020-21 年度新規入会会員（ニューズレター第 34 号以降）

**正会員** 齊藤彰一（岩手大学人文社会科学部）東潤則之（松山大学経営学部）水野雄人（東京都立芦花高等学校）呉東錫（明治大学）内田直樹（日本証券業協会）鈴木均（明治大学客員研究員）グエンディン・ラップ（ベトナム貿易大学）荒木千秋（大阪電気通信大学）笠井高人（同志社大学経済学部）

**学生会員** 大屋潤平（北海道大学大学院教育学院）森田佐知子（高知工科大学博士後期課程起業マネジメントコース）安坂融哉（関西大学）

## 会費納入のお願い

2021 年度の年会費の納入をお願いいたします。2021 年 4 月の納入状況に基づいております。前年度(2020 年度)以前の会費の納入がまだの方には複数年分の会費が振込用紙に記載されておりますので、ご注意をお願いいたします。

また、特別会員制度により、65 歳以上の方は年会費が 2,500 円となります。該当する方は学会事務局へのメール ([office@ecoedu.jp](mailto:office@ecoedu.jp)) もしくは、事務委託先 株式会社サラトまで御連絡願います。下記の振込口座での振込みも可能です。

ゆうちょ銀行 口座番号:00920-3-252875

口座名義:経済教育学会

年会費:正会員 5,000 円、学生会員(大学院生を含む) 2,000 円、65 歳以上の会員 2,500 円・経済教育学会は日本学術会議協会学術研究団体(詳細は

<http://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html>) です。学会費は所属先の校費にてお支払頂ける場合があります。

以下引用の規約にもとづき、過去の会費の未納分がある方は早急に会費を納入願っております。「2年間にわたり会費を納めないものは、原則として会員の資格を失う。学会誌送付時で年会費未納の会員については、その旨を伝えて、本会の出版物の配布を保留し、会費納入後に送付することとする」(会則 4 より) (2016 年 3 月春季理事会で改正)

## 2021 年度 第 37 回全国大会について

齋藤哲哉実行委員長のもと、10 月 30 日、31 日に第 37 回全国大会が日本大学経済学部で開催されます。感染状況次第ではオンライン開催になることもあります。

大会テーマは「コロナ下とコロナ後の経済教育」です。シンポジウムの詳細、分科会の申し込み方法、締切に関しましては、メルマガ、学会ホームページを通じて、おおい告知いたしますので、よろしく願います。

経済教育学会 ニューズレター 第 35 号

2021 年 5 月 10 日発行

発行人 経済教育学会会長 大坂洋

編集人 久井田直之

発行所 日本大学経済学部 久井田直之研究室

〒101-8360 東京都千代田区三崎町 1-3-2

電子メール [office@ecoedu.jp](mailto:office@ecoedu.jp)

学会費送金先 ゆうちょ銀行

振替口座番号 00920-3-252875

印刷所 株式会社 エムディーエス 03-5829-4960